

研修会報告

令和4年7月4日

文責：土田 吉朗

研修会テーマ「令和3年度病理精度管理フォローアップ研修会」

開催日時 令和3年6月25日（土）13:00～16:30

会場 ZoomによるWeb研修会

司会 諸橋 彰

生涯教育点数 専門教科 点

参加者 会員参加者 60名 入会申請中会員 0名 非会員 2名 賛助会員 1名 学生 0名
合計 63名

講演1「令和3年度病理精度管理調査報告・検討報告～ベルリン青染色～」

仙台徳洲会病院 土田 吉朗 技師

東北大学病院 小泉 照樹 技師

講演2「生体内無機物の染色法」

みやぎ県南中核病院 千崎 久美子 技師

講演3「令和3年度精度管理調査 総評」「前立腺を中心とした泌尿器病理について」

東北大学病院 佐藤 聡子 先生

講演4「令和3年度病理精度管理アンケート集計結果～がん遺伝子検査の実施状況～」

仙台徳洲会病院 土田 吉朗 技師

講演5「FFPE病理組織からの遺伝子検査用標本作製～FAQと標本作製の工夫～」

株式会社エスアールエル 後藤 義也 先生

16:30 終了

内容

本会は、令和3年度宮城県臨床検査技師会による精度管理調査の報告とフォローアップを目的として開催した。

講演1では土田技師よりベルリン青染色について、代表的な画像を提示し結果を報告した。申し込みが22施設あり、A判定21施設、B判定1施設、C判定なし、D判定なしという結果であった。設問について1施設が無回答の状態では提出されたため、回答入力時に再確認をして

頂くよう促した。B判定となった1施設では、提出時の標本ラベルの不備によるものであった。B判定であった施設はベルリン青染色自体に問題なく、他の施設についても良好な染色結果であった。また、染色時間や試薬の種類など今回のベルリン青染色に関する調査についても結果を報告した。

次に小泉技師よりベルリン青染色「染色時間・スライドガラスの検討」、「染色試薬の検討」、「鉄消化試験、重染色」の検討についての発表がなされた。染色液作製時の配合や使用までの時間によっても染色不良を引き起こすため注意が必要であることや他の染色との重染色への応用や鉄消化試験も可能であり、非常に診断的価値の高い染色法であることが示された。質疑応答では、廃液方法についての質問があった。

講演2では、千崎技師より「生体内無機物の染色法」について講演を頂いた。生体内無機物発見の歴史から、染色頻度の少ない染色法まで幅広く理解を深めることができたと思われる。質疑応答では、染色頻度の少ない染色法について大規模病院などで実際に実施しているか等の質問がなされた。

講演3では監修医である東北大学病院の佐藤聡子先生より「前立腺を中心とした泌尿器病理について」の講演で、前立腺組織診断時に用いられる Gleason score や、切り出し時のコンタミネーション防止がいかに重要か等を標本画像とともに解説を頂いた。併せて、今回の精度管理調査（ベルリン青染色）の総評として病理医の観点からご指導頂いた。

講演4では、土田技師より「令和3年度病理精度管理アンケート集計結果」として、今回の精度管理調査に参加した各施設から遺伝子検査実施状況等を報告された。遺伝子検査を外注する際や、他施設から未染色標本の作製を依頼される際に各施設が注意していることや困っていることについても発表された。

講演5では、株式会社エスアールエルの後藤義也先生より「FFPE 病理組織からの遺伝子検査用標本作製～FAQ と標本作製の工夫～」の講演頂いた。直前の講演4で挙げた問題点などの対応や標本作製時の工夫を踏まえ、各施設から検査受託している検査会社の実際を画像や動画を交えながら説明して頂いた。

病理部門として Zoom ウェビナーを使用した初めての研修会であったが、大きなトラブル等は発生せず滞りなく終了となった。

今後も精度管理調査を通して、基礎から最新情報まで幅広く学べる研修会を企画・開催できるよう努めたい。